

松江歴史館 NEWS

MATSU REKI



田和山遺跡出土品
(松江市蔵)

特別展 「古代出雲の中心地・松江」開催!



たわやま じこで
田和山遺跡(手前)と神後田遺跡(左奥の森)(同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター画像提供)

【第3号】
2022年
夏号

CONTENTS

- 企画展「松江今昔」開催特報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- スポット展示・ミニ展示のご紹介・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 特別展「古代出雲の中心地・松江」開催特報・・・・・・・・・ 3
- 松江ホーランエンヤ伝承館 10 周年・・・・・・・・・・・・・・ 4
- コラム「雲陽秘事記あらかると」第 2 回(名誉館長 藤岡大拙)・・・・・・ 5
- 新収蔵品紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 松江歴史館からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 【シリーズ】地域ゆかりの資料紹介 ― 美保関町編 ―・・・・・・ 8



みたに ながひろ しんじ こせきしょう
三谷長博 「宍道湖夕照」
(松江商工会議所蔵)

空はオレンジ色と黄色のグラデーションに、雲は紫色に染められ、夕日が沈みゆく宍道湖が表現されています。作者の三谷長博(1902-1983)は松江で活動した洋画家で、本作の他にも宍道湖のあらゆる側面を描き遺しました。



おだ かずま
織田一磨 「松江大橋吹雪の夜」
(島根県立美術館蔵、8月23日(火)から展示)

橋や家々に雪が降り積もる大雪の日の松江です。石版画独特の質感で、吹雪の空が見事に描き出されています。作者の織田一磨(1882-1956)は東京出身の版画家ですが、大正末期に松江に滞在して松江大橋や中海、美保関などの景色を版画にしました。

開催特報!

「松江今昔」

— 美術と文学にみる風景のうつろい —

松江には多くの文豪や画家が訪れ、街や自然の美しさやおもしろさを見いだしてきました。地元で生まれ育った芸術家たちも、美しい松江を描き出そうと絵筆やカメラを手に取りました。松江の風景は、今も昔も人々を惹き付けてやみません。本展では、大正から昭和の松江を描いた絵や写真を展示し、文豪の言葉も紹介しています。懐かしく美しい風景をお楽しみいただき、これまでに気づいていなかった松江の素敵な一面を発見していただければ幸いです。

展覧会情報

企画展

「松江今昔」

— 美術と文学にみる風景のうつろい —

令和4年(2022)

7月22日(金)～9月25日(日)

休館日/毎週月曜日

※9月19日(月・祝)は開館、翌20日(火)が休館

開館時間/9時～17時

(観覧受付は16時30分まで)

会場/松江歴史館 企画展示室

主催/松江歴史館

観覧料/大人 500円(400円)

小・中学生 100円(80円)

※基本展示室とのセット券

大人 800円(640円)

小・中学生 300円(240円)

※()内は20名以上の団体料金

※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で企画展示(または基本展示とのセット券)が団体料金

※各種イベント等の詳細は企画展チラシやホームページでご案内しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により予定を変更する場合があります。

スポット展示・ミニ展示のご紹介

スポット展示とミニ展示では、館内の小さな展示スペースに新収蔵品や最新の研究にまつわる資料、四季にあわせた作品などを特集展示しています。おおよそ2か月に一度、展示替えをしています。

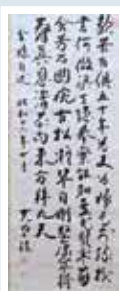
スポット展示

令和4年(2022)11月1日(火)～12月18日(日)

妻へ送るメッセージ

— 若槻禮次郎コレクション —

松江市雑賀町出身の総理大臣若槻禮次郎を支えたのは、同じ雑賀町出身の妻徳子です。禮次郎は、叔父で徳子の父である若槻敬の養子となり、その縁で二人は結婚しました。禮次郎は、金婚や古稀、病氣平癒に際し、慶びと感謝の気持ちを漢詩にして徳子に贈っています。漢詩を記した色紙には、読み下した禮次郎のメモが添えてあり、支えあう夫妻の姿が目に見えます。本展では禮次郎の妻への想いを紹介します。



〔金婚自述〕 若槻禮次郎書
(若槻家蔵〔松江歴史館寄託〕)

会場 基本展示室最終コーナー(要基本展示観覧券)

ミニ展示

令和4年(2022)8月30日(火)～10月30日(日)

松平不昧と茶室「明々庵」

大名茶人として知られる松平不昧の「お好み」の茶室である明々庵。松江の殿町の有澤家本邸に建てられましたが、東京の松平家や、菅田庵のある有澤山荘に移った後、不昧公150年祭を機に現在の赤山の地に移されました。本展では、明々庵関係資料(松江歴史館蔵)を展示し、不昧好みの明々庵について紹介します。



書「明々庵」松平不昧筆(当館蔵)

会場 展示室前展示ホール(観覧無料)

基本展示室も 展示替えがあります

松江藩の歴史や文化を紹介する基本展示室(常設展示)では、お越しいただくたびに楽しんでいたかのように、3か月に一度、大名行列図や町絵図、刀剣などの資料を替えています。詳しいスケジュールなどは随時ホームページでご案内しています。

〔基本展示観覧料〕

大人 510円

小・中学生 250円

(20名以上は団体割引あり)

〔年間パスポート〕

大人 1,560円

小・中学生 780円

(基本展示と企画展示、松江ホーランエンヤ)
(伝承館が1年間何回でも観覧無料)

松江歴史館初 「古代の松江」の展示

「古代出雲の 中心地・松江」

開催特報！

古墳の副葬品、東京から半世紀ぶりの里帰り



Image : TNM Image Archives

ふるてんじんこふん 古天神古墳出土品

(東京国立博物館、島根大学法文学部考古学研究室蔵)

松江市大草町にある小型の前方後方墳の古天神古墳は、大正4年(1915)に発掘されました。鏡や大刀などの副葬品から、地域の中小首長の古墳と考えられています。豊富な種類の須恵器は珍しい組み合わせで、出雲独自の埋葬施設「石棺式石室」が作られた年代を決める上でも重要な資料です。発見された出土品は、東京帝室博物館(現在の東京国立博物館)に収蔵されました。これらの品が東京から里帰ります。



はにわ 馬埴輪

〈平所遺跡埴輪窯跡出土品、重要文化財〉
(島根県教育委員会蔵)

松江市矢田町にある平所遺跡の埴輪窯跡からは、馬や鹿、家、男性などを象った形象埴輪や円筒埴輪がまとまって出土しました。これらは、意宇の地に古墳が造られ始めた6世紀前半のものです。本来ならこれらの埴輪は古墳に飾られるはずでしたが、埴輪窯で廃棄されたようです。

この馬埴輪は全高が約100cmと大きく、轡や鐙といった細かな装具が表現されており、高い技術を持った集団が意宇の地にいたと考えられます。

古墳を飾った
多種多様な
形象埴輪

松江市南部にある田和山遺跡(松江市乃白町)は、弥生時代のまつりの場と考えられる山頂のわずかな空間を、三重の堀で囲んだ巨大な遺跡です。その付近から集落を堀で囲んだ神後田遺跡(松江市浜乃木)が発見されました。古墳時代になると意宇の地と呼ぶ松江市南郊には県内最大の山代二子塚古墳(松江市山代町)など多数の古墳が集中して築かれ、やがて出雲国の中心地として国府や国分寺が整備されていったのです。本展では、松江市南郊から出土した遺物を中心に展観し、弥生時代前期末から中期初頭に田和山遺跡と神後田遺跡が出現して以降、意宇の地が古代出雲の中心地となる様子をたどります。

特別展

「古代出雲の中心地・松江 — 田和山・神後田から国府・国分寺へ —」

令和4年(2022)10月14日(金)~12月11日(日)

休館日/毎週月曜日

開館時間/9時~17時

(観覧受付は16時30分まで)

会場/松江歴史館 企画展示室

主催/松江歴史館

観覧料/大人 600円(480円) 小・中学生 300円(240円)

※基本展示室とのセット券

大人 880円(700円) 小・中学生 440円(350円)

※()内は20名以上の団体料金

※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で団体料金

展覧会情報

※各種イベント等の詳細は企画展チラシやホームページでご案内しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により予定を変更する場合があります。



松江ホーランエンヤ 伝承館10周年



松江ホーランエンヤ伝承館外観

イベント会期等情報

松江ホーランエンヤ伝承館

10月22日(土)

9時～17時

無料
開放

平成24年(2012)10月28日に開館した松江ホーランエンヤ伝承館(以下、伝承館)は、この秋で開館10周年を迎えます。伝承館は松江が誇る祭事であるホーランエンヤ(松江城山稲荷神社式年神幸祭)のすばらしさを全国に伝えるために設置されました。館内のシアタールームでは観光で来られたお客様にも魅力を伝えるための映像を放映し、展示室では祭事の花形たる權伝馬船で踊る劍權と采振の衣装や五大地(五地区保存会)ごとの特徴を紹介しています。

本年、松江市内の切り絵作家・陶山広之氏から令和元年のホーランエンヤの切り絵をご寄贈いただきました。10月にはこの切り絵の披露とともに令和元年のホーランエンヤの映像や写真の展示を行い、開館10周年を祝します。これからも日本三大船神事と言われるホーランエンヤの将来への継承と魅力の発信に努めていきます。



松江ホーランエンヤ伝承館の庭



令和元年(2019)のホーランエンヤ

松江ホーランエンヤ伝承館

〒690-0887 島根県松江市殿町250番地
<https://matsu-reki.jp/ho-raneya/>
 ※TELは松江歴史館(0852-32-1607)へ

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月29日～1月1日)

開館時間 9時～17時(観覧受付は16時30分まで)

観覧料 大人 200円(160円)
 小・中学生 100円(80円)

※松江歴史館を有料展示観覧された方は、当日に限り無料で観覧できます。
 ※()内は20名以上の団体料金

【第2回】

雲陽 秘事記

あらかると



松平直政の機転

秘事記に次のような話がある。細川越中守は若くして亡くなった。嗣子^{しし}はまだ三歳の幼児だったので、後継者としての正式な申請は、当然していなかった。このようなときは、法度^{はふど}に従って、先主の知行の半分(半知)が認められることになっていた。肥後細川藩の場合、誰が見ても半知は必定であった。つまり、従来五十四万石だったから、幼児は二十七万石に減禄^{げんろく}されるはずである。

だが、もしそうになると、藩士たちは大変である。今まで五百石取りは二百五十石に、百俵のものは五十俵に、十人扶持^{ふち}のものは五人扶持となる。低禄のもののほど生活は困難になる。細川藩では、家老たちはもちろん、家中一統(藩士全員)が深刻な思いをしていた。やがて、嗣子の幼児は將軍の前に呼び出され、



名誉館長

藤岡 大拙

細川家の家督引継ぎについて、申し渡しがあつた。その時、付き添いの大名として同伴したのが松平直政^{なおまさ}であつた。將軍は重々しく読み上げた。

「越中守死去に付、家督は幼少なるによつて、半知二十七万石を給す」

と言い終わる寸前に、直政は三歳の幼児のお尻をこっぴどくつねつた。幼児は火のつくように泣き出した。すると、直政は將軍に向かい、「有難き仕合せ、細川越中守の家督を相違なく仰せつけられ、これ、この通り幼児も感泣しております」

と言つたものだから、將軍も仕方なく五十四万石そのまま家督を認めざるをえなかつた。

直政の機転の才覚に、ほつと安堵^{あんど}の胸をなでおろした細川藩では、そのお礼として、長柄^{やうり}の槍百五十本を松江藩に贈つた。松江藩では、五十本を江戸屋敷に、五十本を大坂屋敷に、五十本を松江城にそれぞれ配備したという。

筆者評

さて、この話はどこまで真実だろうか。

細川藩の歴史を徴するに、早世したという細川越中守は、二代藩主肥前守光尚^{みつなお}に比定できる。彼は慶安二年(一六四九)三十一歳の若さでなくなっている。その時、嗣子六丸(のち三代藩主細川綱利^{つなとし})は七歳であつた。慶安のころの將軍は、四代徳川家綱である。嗣子の年齢に若干の差異があるものの、嗣子が幼齡にもかかわらず満額禄高を認められている点など、秘事記の記述も史実に近いものがある。

ただし、六丸が満額禄高を継承できたことについて、藩史の説明では、父光尚が遺書のなかで、自分の死後は細川藩を幕府に返上したい旨が記されており、これが幕府当局に好感をもつて受けとめられたためとされ、直政の努力などはいっさいとりあげられていない。とすれば、秘事記の記述は作り話か。しかし、

一、秘事記には、直政が彦根藩井伊家でも、家督相続で世話をしている。

二、直政は当時、諸侯間で「油口(巧みな弁舌)の出羽」と称され、口が達者で、世話好きな大名として知られていた。

以上のことを考えると、子どものお尻をつねって泣かせたことなどは別として、相続問題で苦しむ諸侯に手を貸して、感謝されていたのは事実ではなからうか。

NEW

MATSUE REKISHIKAN

新収蔵品紹介

松江歴史館では、歴史資料や美術作品などを中心に、収集方針に基づいて資料の収集を行っています。

松江市域あるいは江戸時代の出雲国の歴史や文化を語る上で欠かせない資料、そして山陰地域さらに日本または世界の歴史や文化にとって重要な資料などが地域から失われるのを防ぎ、後世へ受け継ぐとともに、その価値を調査・研究・展示によって発信していきます。



松江藩主と
石見銀山代官の
緊密な付き合いを
示す

まつだいらつなちか

松平綱近書状

(令和2年度 購入)

2月9日付で、3代松江藩主松平綱近から石見銀山代官の後藤覚右衛門に宛てた書状です。後藤が銀山代官であった元禄5年(1692)から同11年(1698)の間に発給されました。後藤が江戸に向けて出発すると綱近に伝えたことに対する礼状で、綱近はこの書状と共に「肴兩種」を贈っています。石見銀山領(幕府直轄地)と松江藩領は接しており、緊密な付き合いがあったと推測できる史料です。



出雲地方における
近代木工の粋

しまぎりひょうたん しっぽうすかして つき たばこ ぼん 堀越清峯作
縞桐瓢箪七宝透手付煙草盆

(令和3年度 寄贈)

煙草盆は、煙管や煙草入など喫煙のための道具を収める盆や箱のことです。本作は茶席に使われるものです。松平不昧のお好みの形で、柱目の縞桐を四角く船底型に組み、把手と透かし模様、縁飾りに桑材を用いています。縞桐の特徴はまっすぐで細かい木目です。縞桐もこの透かし模様も他の不味好みの煙草盆にしばしば見られます。

作者の堀越清峯(1888-1952)は代々指物師の家系で、近代出雲を代表する指物師の一人です。本作は桐材の美しさと指物の技を発揮した優品で、近代における出雲地方の木工文化を示すものといえます。

宍道氏に
ゆかりの太刀

さんじょうむね ちかめい た ち
三条宗近銘太刀

(松江市指定文化財)(令和3年度 寄贈)

戦国時代に出雲国宍道の金山要害山城主であった宍道政慶が、大名毛利氏の命令で長門国へと移る際に、宍道町の商家に預けた太刀と伝わります。太刀の長さは74.2cm、反り3.3cm、元幅3.1cm、先幅1.7cm、重ね(厚さ)は0.6cmです。造込みは鑄造、庵棟で身幅はやや細く、小切先となっており、柄には京都の三条に住んだ刀工である「三条住宗近」の銘を切っています。

松江歴史館からのお知らせ

Instagramで 情報発信中



松江歴史館Instagram



〈Facebook、Twitterでも情報発信中!〉

Facebook



Twitter



2022年2月11日に松江歴史館のInstagram^{Instagram}を開設しました。
イベント情報のほか、四季折々の松江の景色なども配信しています。
企画展や特別展の開催時には、展示作品の解説も配信しています。
あっぱれくんとしじみ姫も登場して、松江歴史館の豆知識などを発信中。
ぜひフォローをお願いします!



あっぱれくんとしじみ姫が、
短い動画で松江歴史館や
松江城の見どころを紹介して
います。



企画展「出雲の民藝」では、
作品紹介を配信しました。
今後の展覧会についても
掲載予定です。
ぜひご覧ください。

ホームページを リニューアルしました!

松江歴史館ホームページ



すっきりしたシンプルな
デザインに変更しました。



松江歴史館のホームページを2022年7月1日にリニューアルしました。
リニューアル後は、スマートフォンからも見やすくなりました。また、
毎月第3水曜には松浦正敬館長のコラムを配信しています。
新しくなったホームページをぜひご覧ください。

\ New! /

〈旧画面〉



わがどこの、 何があーかね？

【美保関町編】

出雲弁で「わたしたちの地域に何があるの?」という意味。

松江歴史館は、松江市域ゆかりの歴史資料や美術作品を多数収蔵しています。このシリーズでは、収蔵資料や近年調査した資料などを地域ごとに紹介します。今回は美保関町について紹介します。



図3: 美保神社の祭礼を記した冊子
「美保神社私祭詳解原稿」(昭和13年、当館蔵)



島根半島の東端に位置する港町

の美保関(松江市美保関町)は、三穂津姫命と事代主神を祀る美保神社を中心に、美保湾に沿ってできた町です。出雲国の創成にまつわる神話「国引き」「国造り」「国譲り」はこの美保関に関係しており、美保神社では現在でもこれらの神話に基づいた神事「青柴垣神事」諸手船神事」が執り行われ、神話とともにある町といえるでしょう。

また、美保関は中世以降、日本海海運の重要な港となっていきました。奥出雲で生産した鉄をはじめとする諸物資の搬出入口の港町として、そして美保神社の祭神である海上守護神の事代主神と商売繁盛などの神であるエビス神の習合によって、多くの参拝者を集める門前町として大きく栄えました。近代に

入っても交通の要衝として栄え、

数多くの人々が美保関を訪れます。明治24年(1891)に松江中学の教師として赴任した小泉八雲は、古い日本の姿が残る美保関をこよなく愛し、三度も美保関を訪れています。その際にセツ夫人が、髪を結ってもらったお礼として贈った貝製の根掛け(髪飾り)(図1)が伝わっています。

当館は昭和

10年(1935)

の美保関を描いた鳥瞰図「美保関港詳細図

絵(図2)を所蔵しています。戦前の栄えていたこ



図1: 美保関で小泉セツからもらった髪飾り(明治時代、当館寄託)

ろの美保関を描いたもので、美保湾沿いに旅館が建ち並び、数多くの船が停泊しています。絵図の下部には町の概要とともに、汽船の經由

地や料金を記しており、汽船が主

要な交通手段であったことがわかります。この鳥瞰図を描いた人物は、

旅館「五松館」の主人であった野村憲治(号五松)で、美保神社の祭礼の際には當屋を務めていました。野村氏は青柴垣神事などの祭礼に関わる人々のために、祭礼の詳細を図入りの冊子「美保神社私祭詳解原稿」(図3)にまとめています。青柴垣神事での神船の飾り付けや、當屋の棚飾りなどの様子がわかり、それまで口伝であった祭礼を文章や絵で表した重要な資料です。

美保関は美保神社を中心にして栄えた港町です。美保湾沿いの狭い平地にひしめき合って建つ旅館や細い路地、そこに伝来した資料から、栄えた往時の姿が偲ばれます。

美保関は美保神社を中心にして栄えた港町です。美保湾沿いの狭い平地にひしめき合って建つ旅館や細い路地、そこに伝来した資料から、栄えた往時の姿が偲ばれます。

栄えた往時の姿が偲ばれます。



図2: 昭和10年の美保関の町を描いた鳥瞰図(昭和10年、当館蔵)